

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	196	197	198	199	200
事業名	教育の北九州方式の実現	体験活動を重視した学校(ひらおだい四季の丘小学校)との連携	北九州中央高等学園における職業教育の充実	少人数・習熟度別指導の推進	基礎・基本の定着度の測定
事業概要	教育の北九州方式検討会議からの答申に基づき、地域コミュニティーの力で子どもたちの成長を支えていくシステムとして「地域とともに歩む学校」と新しいスタイルの学校を設立するものとして「北九州市をリードする学校」について、具体的な施策を計画・立案する。	国の構造改革特別区域制度を活用して18年度に開校した私立ひらおだい四季の丘小学校は、教科学習の一部を体験活動を通して学ぶという特長をもった学校である。また、この学校で得られた成果は、広く市立小学校に紹介し実践するなど、体験活動の充実に資することが期待される。このため、ひらおだい四季の丘小学校との連携を推進していく。	特別支援学校(知的障害)高等部への進学希望者の増加傾向に対応し、軽度の知的障害のある生徒に対して、職業教育を重視した教育を行うことにより、北九州市民としての自覚をもった自立する職業人の育成を目指す。	市立小中学校における北九州市の特色ある教育を推進するため、国による少人数指導の教員配置に加え、市単費で非常勤講師を配置し、教科等において習熟の程度に応じた指導を行うなど、少人数による指導を推進する。	児童生徒一人一人の課題や学力向上にかかわる施策の効果について明らかにし、各学校の指導方法の工夫・改善を行うため、観点別到達度学力検査の充実を図る。
指標	-	私立小学校設立	-	-	実施学年・教科
初期年度: 初期値 (計画策定時)	-	16年度: 支援実施	-	-	平成16年度: 小2、4、6の国・算、中2、3の国・数・英
目標年度: 目標値	-	18年度: 開校	-	-	平成18年度: 小2、4、6の国・算、中1の国・算、中2、3の国・数・英
実施年度: 実績値	-	18年度: 開校	-	-	平成18年度: 小2、4、6の国・算、中1の国・算、中2、3の国・数・英
19年度 実施状況等	新しいスタイルの学校設立の調査・研究  18年4月、教育改革特区を活用した、仰星学園高等学校、日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校が開校  生徒数 ・仰星学園: 93名 ・ウェルネススポーツ: 27名	平成18年4月教育改革特区を活用した私立ひらおだい四季の丘小学校開校 児童数: 18名 (平成19年5月1日現在)	平成19年4月1日北九州中央高等学園開校  教職員の指導力向上のため企業関係者等を就労支援専門家として派遣	平成18年度～No.340 学校支援のための市費講師配置事業に統合。	小学校2・4・6年生: 国語、算数 中学校1年生: 国語、算数 中学校2年生: 国語、数学、英語 希望特別支援学校: 各該当学年について、観点別到達度学力検査を実施。 報告書は、国の学力、学習状況調査との合本として作成し、3月末配布。
備考 (特記事項)		19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業名・事業概要を変更	平成19年4月1日開校(校名: 北九州中央高等学園)。それに伴い、事業名・事業概要を変更。	18年度事業統合	
担当(課)	教育・企画課	教育・企画課	教育・特別支援教育課	教育・教職員課、指導第一課	教育・指導第一課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	201	202	203	204	205
事業名	学力向上推進事業	教員の学校間兼務の推進 (ティーチャーズネット)	幼保小連携事業	北九州 放課後教室	北九州 夏の教室
事業概要	市内全域を学力向上推進地域とし、各学校において「学力向上プラン」を策定し、実践的な取り組みを行う。また、「学力向上推進事業指定校」を指定し、児童生徒一人一人の個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善に関する実践研究を行う。	小中学校の多様な教育活動を支援し、教員の専門性や知識、経験を生かす、きめ細かな指導を行うため、中学校における免許外教科担任の解消及び小学校における専科指導の充実のため教員の学校間兼務を推進する。	乳幼児から小学校卒業までの継続的な教育を推進するため、小学校を核として、幼稚園、保育所、小学校の連携に取り組むとともに、教職員の合同研修や乳幼児・児童、教職員相互の交流活動を実施する。また、幼保小連携のためのカリキュラムづくりなど、より効果的な連携のあり方を検討し、幼保小連携の市内全域への拡充を図る。	学習機会の拡充や学習した内容の確実な定着を図るため、市立の全小中学校において、希望する児童生徒を対象に放課後教室を実施する。	学習意欲の向上や個性の伸長をサポートするとともに、家庭における学習習慣づくりのため、夏季休業日中にすべての市立小・中・養護学校において、希望する児童生徒を対象に一週間程度夏の教室を開設する。
指標	-	-	実施箇所	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	21年度：全幼稚園・保育所で実施	-	-
実施年度： 実績値	-	-	19年度：実施校区3地域(小学校3、公立幼稚園2、私立幼稚園1、公立保育所2、私立保育所1)、指定実践研究	-	-
19年度 実施状況等	全校において「学力向上プラン」を作成・実施。 学力向上指定校として小学校(7校)、中学校(4校)を指定し、3年間の研究を実施。 各指定校年1回、実践交流会を開催。	兼務内容 ・中学校間兼務 技術 2校 家庭 1校 計 3校 ・小中学校間兼務 理科 3校 音楽 9校 保健体育 7校 家庭 1校 図工 2校 英語 4校 計 26校	幼保小連携実践校区連絡会：2回実施 実践校区において、連携を効果的に行うためのカリキュラムの作成と実践 実践校区での交流活動 実践校区主催の合同自主研修会開催(参加者128名) 19年度報告書の作成	平成18年度～ No.340 学校支援のための市費講師配置事業に統合。	夏の教室参加率 ・小学校：80.8% ・中学校：37.7% ・特別支援学校：76.2% 小・中学校で増加しているが、特別支援学校で減となっている。
備考 (特記事項)			19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業概要を変更。	18年度事業統合	
担当(課)	教育・指導第一課	教育・教職員課	子ども家庭・保育課、 教育・企画課、 指導第一課	教育・指導第二課	教育・指導第一課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	206	207	208	209	210
事業名	子どもの読書活動の推進	「10分間読書」の推進	「総合的な学習の時間」の推進	特別非常勤講師制度の活用	キャリア・アドバイザー活用事業
事業概要	「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されたのを受け、北九州市子ども読書活動推進計画を策定し、すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動を行うことができる環境の整備に努める。	すべての市立小・中学校において、子どもたちに読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣を身に付けさせるため、「10分間読書」を推進する。	本市の特色でもある環境や福祉などに関する課題や社会との関わりを深める活動をはじめ、英会話体験活動やコンピュータ学習などを通して、子どもたちに21世紀を切り拓く問題解決力を育成する。	多様化する学校教育への対応とその活性化を図るため、地域の人材や多様な専門分野の優れた社会人を特別非常勤講師として市立小中学校に配置し、各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間などで子どもたちを指導する。	北九州マイスターをはじめ地域で活躍するさまざまな技術をもった達人を派遣し、生徒に将来の生き方や進路を考える機会を提供する。さらに、本市において培われてきた産業技術を学ぶことで、郷土愛や豊かな心をはぐくむ。(～H18)
指標	計画の策定	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	16年度：計画策定中	-	-	-	-
目標年度： 目標値	17年度：計画策定、以後 順次実施	-	-	-	-
実施年度： 実績値	19年度：計画の順次実施	-	-	-	-
19年度 実施状況等	子ども読書の日の啓発に、本のしおりを配布。市内全校・園で「子ども読書の日」の取り組みの実施。 「北九州市読書まつり」の実施。	「10分間読書」の全校実施。 小・中学校ともに100%実施。	各学校や地域の特性を生かした取組を中心に計画どおり実施。	19年度：55校、68名を1,279時間配置。 11～19年度までの通算：約355校12,700時間配置。	「北九州マイスター」「北九州技の達人」による技能伝承事業を併行実施  市内全中学校63校において計画どおり実施
備考 (特記事項)					事業名変更(旧・「だれでも達人」生き方伝承事業)
担当(課)	教育・生涯学習課、中央図書館、指導第一課、学事課、施設課	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・教職員課	教育・指導第一課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	211	212	213	214	215
事業名	中学生芸術鑑賞教室	「小さな国際人」育成事業	「英語が話せる中学生」育成事業	小中連携英語教育プログラムの定着	イングリッシュ・コンテスト北九州
事業概要	思春期の最も感受性の豊かな中学生に芸術性の高い演劇、音楽、美術等を鑑賞させることによって、芸術を身近に感じさせるとともに、豊かな情操の育成を図る。	すべての市立小学校3年生以上を対象に、外国語指導助手（ALT）を活用した英会話体験学習を実施し、小学校段階から国際理解を深めるとともに英語に親しむ機会を提供する。	小学校での英会話体験学習をさらに発展させるため、すべての市立中学校で外国語指導助手（ALT）を活用し、英語科授業の充実を図る。	児童生徒が英語のコミュニケーション能力を効果的に身に付けることができるよう開発した、小・中学校が連携した北九州市らしい英語教育プログラムを全小中学校にて実践し、プログラムの見直し・検討を行う。	中学生を対象に英語スピーチコンテストを実施し、実践的コミュニケーション能力の向上を図るとともに、教員の指導力向上や自己研鑽につなげる。
指標	-	-	ALTを活用した英語教育の回数（各学級）・人数	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	15年度： 中1・2年...月2回、中3年...月1回 27名	-	-
目標年度： 目標値	-	-	21年度：中1～3年に週1回 55名	-	-
実施年度： 実績値	-	-	19年度：中学校各学級月2回 39名	-	-
19年度 実施状況等	「中学生舞台芸術鑑賞教室」、「中学生音楽鑑賞教室A」、「中学生音楽鑑賞教室B」、「中学生美術鑑賞教室」を実施。 ・参加生徒数：7,287人	各学級にて年間20単位時間程度、英会話体験学習を実施。	全学年、月に2回、外国語指導助手と英語科教員との協同授業を実施。（ALT38人）	「小・中連携 英語教育プログラム」の改訂版配布(4月)の実施。	平成19年11月14日に予選、12月18日に本選を実施。 ・参加者数 予選：216人 本選：45人
備考 (特記事項)					
担当(課)	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・指導第一課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	216	217	218	219	220
事業名	帰国・外国人児童生徒教育推進事業	スポーツ国際交流員招致事業	「コンピュータが使える小学生」育成事業	パソコン整備	ジュニア・サマースクール北九州
事業概要	帰国・外国人児童生徒の学校生活への適応の促進や日本語指導等を行うとともに、ふれあい国際交流教室（インターナショナル・キャンプ等）、その他の児童生徒との相互啓発を通して国際理解教育を推進する。	「語学指導等を行う外国青年招致事業」の一環として実施するスポーツ国際交流員を地域に派遣し、国際交流を推進するとともに本市小・中学校の児童生徒のサッカー技術の向上と指導者の養成を行い、スポーツの振興を図る。	すべての市立小学校・養護学校小学部で情報化推進員を活用し、教員と共同でコンピュータを活用した授業を行い、児童の発達段階に応じたコンピュータ操作や活用能力の育成に努める。	すべての市立小・中・養護学校のコンピュータ教室に設置されているパソコンの更新とともに、普通教室及び特別教室のパソコン（通信回線、通信環境整備、学習用ソフトウェアを含む）を整備する。（～H18）	本市の特色を生かし、児童生徒の探究心や創造力を高め、自ら進んで学習する習慣が身に付き、主体的に学ぶ楽しさが味わえる講座を開設する。
指標	-	サッカー技術の向上校数（派遣校の拡大）	-	整備率	-
初期年度： 初期値 （計画策定時）	-	16年度：延べ12校	-	16年度：48%	-
目標年度： 目標値	-	21年度：延べ16校	-	18年度：100%	-
実施年度： 実績値	-	19年度：延べ9校	-	18年度：100%	-
19年度 実施状況等	国際化推進センター校：4校 帰国・外国人児童生徒の受け入れ体制の一層の充実 ・受け入れ児童生徒数 19年度：52名 ・事業参加人数 19年度：515人	延べ9校にスポーツ国際交流員を派遣し、サッカー技術の向上と国際交流の推進を図った。	29名の情報化推進員を原則週1回の割合で配置。 6年生児童のコンピュータ基本操作能力は、94%を超えている。	18年度事業終了  （参考：18年度実績） パソコン整備更新校数 ・小学校：37校 ・中学校：13校 ・養護学校：4校	18年度事業終了  （参考：18年度実績） コース数を削減し、内容の充実を図った。 ・コース数：2コース ・参加者定員：100名 ・参加者：98名
備考 （特記事項）		19年8月事業終了		18年度事業終了	18年度事業終了
担当（課）	教育・指導第一課	教育・体育課	教育・指導第一課	教育・学事課	教育・指導第一課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	221	222	223	224	225
事業名	理科大好きスクール	環境教育推進事業	環境首都！目指せわが街わが校の環境作戦	こども環境学習推進事業	心に響く道徳教育推進事業
事業概要	市立小・中学校から7校を指定し、学校だけでなく地域や大学、博物館等の関係機関と連携し、観察・実験、野外活動等を積極的に取り入れた活動を実施することにより、子どもたちの理科への興味を引き出す授業づくりを推進する。(～H17)	環境に対する認識を深め、よりよい環境の創造や保全のために主体的に取り組む態度、能力を育成する。そのため、市立幼稚園・小・中・特別支援学校を対象に、環境ミュージアムやエコタウンなどの環境関連施設で体験的な学習(北九州エコツアー)を行う。また、環境教育推進校を指定し、環境学習プログラムの編成や教材開発を行う。(～H19)	子供たちの環境に対する認識を深め、環境保全のための主体的、実践的な態度、能力を育成し、体験的な活動を実施する。また、「環境首都 子どもサミット」を開催する。	子どもたちが、地域の中で自主的に環境活動を行うことを支援する「こどもエコクラブ」事業を実施する。あわせて、子どもたちの環境学習の推進のため、環境教育副読本を配布し、環境ミュージアムや空き缶プレスカー「カンガルー号」などの利用により、子ども環境学習を推進する。	道徳教育の充実のため、豊かな体験活動を通して、子どもたちの内面に根ざした道徳性を養う。そのため、2中学校区を指定し、小中学校間の道徳教育の連続性・一貫性を図る。(～19)
指標	-	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-	-	-
19年度 実施状況等	17年度事業終了	エコツアー： 小学校41校、中学校11校、幼稚園5園実施。 推進校：各校の計画に従って実施。 全校環境教育推進事業：各校の実践をまとめ、各校のホームページに掲載。 「環境首都！こどもサミット」開催 (参加者：581名)	平成18年度～「No.222 環境教育推進事業」と統合。	宿泊交流会：60名参加 環境の日、エコスタイルタウンに絵画展示・木工工作を出展 12月、壁新聞の作り方教室を実施 会員数：19,165名 「こどもエコクラブ全国フェスティバルin北九州」のイベントで、12,800人の参加	2中学校区を指定し、実施。 浅川中学校区(浅川中、浅川小、光貞小)及び田原中学校区(田原中、田原小、貫小)でそれぞれ研究発表会を開催した。
備考 (特記事項)	17年度事業終了		「No.222 環境教育推進事業」と統合。	19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業名・事業概要を変更(旧・北九州こどもエコクラブ推進事業)	
担当(課)	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・指導第一課	環境・環境首都推進室	教育・指導第一課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	226	227	228	229	230
事業名	伝統文化体験事業	武道教育の推進	人権教育の推進	男女共同参画社会の実現に向けた教育の推進	健康教育の推進
事業概要	市立小学校の1・2年生を対象に、古くから伝わる日本文化、伝統に親しませる活動を通じて、礼儀作法や自らを律する心などの基礎を培う。	基本的な技能の習得と武道における礼儀・作法などの行動の仕方、相手を思いやる心を育成するため、市立中学校において武道教育を推進する。	本市人権教育の6つの視点に基づき、幼児・児童・生徒の発達段階に即し、人権教育資料等を効果的に活用しながら、体系的な人権教育を推進する。	すべての市立小・中・養護学校において「男女の平等に関する指導の手引」「男女共同参画社会に関する副読本」を活用し、男女共同参画の意識の高揚と実践的態度を育成する。	生きる力の基盤としての食と健康や体力の向上等に関する知識を学校教育全体を通して身に付けさせ、生涯を通じて健康で安全な生活を送るため適切に行動できる実践的な能力の育成を図る。
指標	-	実施学校数	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	16年度：48校	-	-	-
目標年度： 目標値	-	21年度：全中学校	-	-	-
実施年度： 実績値	-	19年度：51校	-	-	-
19年度 実施状況等	5校（小森江東小、田野浦小、泉台小、湯川小、八幡小）を指定し、2カ年計画で継続的に実施(2年目)。	教科学習として実施。 (中学校63校中51校実施) 教科等研究で、門司区で剣道、戸畑区で柔道の授業公開を実施。	「人権教育実践ハンドブック」の内容検討	副読本の改訂版が作成され、積極的な活用が図られた。 全小・中・特別支援学校のほぼ90%で活用が行われている。	保健主事講習会：8月24日開催 学校保健委員会開催校：135校
備考 (特記事項)	事業名変更(旧・体験・発見 律する心！伝統文化を通して学ぶ)				
担当(課)	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・指導第二課	教育・指導第一課	教育・指導第一課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	231	232	233	234	235
事業名	性教育の充実	安全教育の充実	児童生徒の健康診断の実施	部活動外部講師の活用	複数校合同による部活動の推進
事業概要	性に関する正しい知識を身に付けさせ性差を十分に理解して互いに尊重し合う態度を育成するとともにエイズ、性感染症、性情報への対処等、性に関する諸問題に対して適切な意思決定や行動選択ができるようにする。	日常生活における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献できる資質や能力を培う。	就学時及び毎年定期的に、個人及び集団の健康状態の把握を行うとともに、疾病異常が認められる者について、治療の勧告や学校生活についての指導を行うなど、児童生徒等の健康の保持増進を図り、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な能力や態度を養う。	部活動における生徒の多様なニーズに広く応えるとともに、専門的な技術指導を教員の補助として行うため、外部講師を活用する。これにより生徒が自分の個性や能力を伸ばしつつ、集中力、忍耐力等の育成や体力の向上を図る。	単一の中学校の生徒及び職員では部を存続し難い、または、活動の成果が十分に期待できないなどの問題が生じているため、学校間の連携・協力のもと、複数校合同で部活動を実施し問題の解決を図る。
指標	-	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-	-	-
19年度 実施状況等	各学校において実施中。「性教育の手引き」の検討。	通学路マップを全国で作成。 185校で防犯教室を実施。	根拠法に基づき健康診断を実施しており、医学的見地から個人及び集団の健康状態を把握し、評価を行なうとともに、発育発達や疾病異常に関して健康づくりの問題点や課題を明確にし、児童生徒の健康の保持増進を図っている。  定期健康診断：全学校（園）で実施。 就学時健康診断：全市立小学校で実施。	部活動の外部講師147名（運動部118名・文化部29名）を承認。	10組（5校）が希望して実施。
備考 (特記事項)		安全教育全体の指標として、交通安全教室の実施率だけでは不適切であるため、指標、目標値等を削除。			
担当(課)	教育・指導第一課	教育・指導第二課	教育・学校保健課	教育・指導第二課	教育・指導第二課



## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	236	237	238	239	240
事業名	学校予算の配分・執行のあり方の見直し	学校事務の共同実施	カリキュラムセンター機能の充実	学校間あったか交流事業	教員の評価制度の確立
事業概要	市立幼・小・中・養護学校の教育計画や学校運営の実態に応じた効率的・弾力的な予算執行を目的として、各学校の要望を反映させた予算調整を推進し、経費の執行についても、学校長の権限拡大などを検討する。	学校における業務の負担軽減を行うとともに事務の効率的な処理と事務機能の強化を図るため、学校事務の共同実施の方策について検討する。	教育センターの「カリキュラムセンター」としての機能を強化し、積極的に市立学校を支援することにより、学校の教育課程や具体的な指導上の諸課題解決支援、教職員・児童生徒・保護者への情報提供、相談等を行う。	資源の有効活用、学校予算の効率的執行を図るため、市立学校間において教材教具や特色ある取組等について、学校間情報ネットワークシステムによる、効果的・効率的な情報提供を推進する。	公務員制度改革の動向を見据えた調査研究の成果を踏まえ、教員の能力や実績等を適正に評価し、それを配置や処遇等に適切に結びつける能力開発型の評価制度を平成18年度から導入する。これにより、教員が資質能力を向上させながら、それを最大限に発揮し、学校運営に積極的に参画する仕組みを構築し、さらなる学校教育の充実を図る。
指標	-	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-	-	-
19年度 実施状況等	予算調整の実施。 学校経営改革自主事業の支援実施。 予算流用制度を年4回へ回数増。	市内36グループのうち、10グループで1年間の試行実施を行い、課題の改善策等の協議を行った。	支援・相談件数：1,425件 HPによる学習指導案・蔵書の検索開始。 自主研修の場の拡大	学校間の物品リサイクルや各学校の運営に役立つ情報交換を促進し、活発かつ効率的な学校運営に役買っている。 ・年2回情報交流紙を発行 ・電子会議室を試行実施 参加学校数：39校 件数：78件	18年度事業終了 (参考：18年度実績) 本格実施。 ・新任者研修：1回 ・評価者訓練の実施：3回
備考 (特記事項)		事業名・事業概要を変更(旧・学校事務の効率化・負担軽減)。			18年度事業終了
担当(課)	教育・学事課	教育・教職員課	教育・教育センター	教育・学事課	教育・教職員課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	241	242	243	244	245
事業名	優秀な教員の表彰制度	教職員研修の充実	指導力不足教員等の人事管理システム	英語教員の資質向上のための研修	教員採用試験の改善
事業概要	優れた教育活動を実践している教員を適性に評価し、個々の教員の意欲や努力に報いるとともに、その資質を向上させることを目的とした、優秀な教員の表彰を毎年度着実に実施する。	社会の変化に伴う新たな教育に対応して、教職員の資質の向上、指導力の向上を図るため、基本的な研修に加え、カウンセリング、情報教育、学校経営など専門研修を充実する。	教員の指導力や校長、教頭の管理能力を調査、判定し、その結果に応じて「長期特別研修」「管理職特別研修」「指導力向上研修」等を実施し、教員の資質向上を図る人事管理システムを推進する。	子どもの英語による実践的コミュニケーション能力の育成をめざし、英語科教員に対し、指導力の向上を目指した研修を実施する。(平成15年度から5か年計画)	本市が目指す学校教育にふさわしい教職員を確保するため、教員採用試験の改善を行う。
指標	-	-	-	受講者数	-
初期年度: 初期値 (計画策定時)	-	-	-	15年度: 40人	-
目標年度: 目標値	-	-	-	19年度: 175人(累計)	-
実施年度: 実績値	-	-	-	19年度: 181人(累計)	-
19年度 実施状況等	表彰式実施: 7月 表彰者: 50名 (うち特別表彰者5名)	94講座340研修を実施	長期特別研修の実施 管理職特別研修の実施 指導力向上研修の実施	10日間の研修を実施。 受講者数: 38人(育児休暇等による受講延期2人)	採用区分の見直し ・特別支援学校教員の採用枠設置。
備考 (特記事項)				事業実施状況などをふまえ、目標値を変更。	
担当(課)	教育・教職員課	教育・教育センター、 教職員課	教育・教職員課、 教育センター	教育・教育センター	教育・教職員課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	246	247	248	249	250
事業名	管理職（校長・教頭等）試験の改善	学校評価の推進	学校評議員制度	学校教育制度実践研究事業	学校教育実態総合調査事業
事業概要	本市が目指す学校教育にふさわしい管理職（校長・教頭等）を任用するため、昇任試験の改善を行う。	学校・園が保護者や地域住民などの信頼に応え、家庭や地域と連携、協力して一体となって子どもの健やかな成長を図っていくため、教育活動その他の学校運営について、学校・地域の実情に応じた学校の評価システム（自己評価・学校関係者評価）を実施する。	すべての市立幼・小・中・特別支援・高等学校において学校評議員を委嘱し、評議員から出された意見を参考にして、開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携協力しながら、特色ある教育活動を展開していく。	大きな変革期を迎えている学校教育制度を調査研究し、北九州市らしい教育改革を実現することを目的に、二学期制や長期休業期間の弾力的運用などについて、実践的な調査研究を行う。	継続的に定点観測を行う経年（3年に1回）調査として、本市における学校教育の現状を調査・分析し、課題解決に向けての研究、提言を行う。
指標	-	実施率	-	-	調査実施
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	16年度：自己100% 外部 73%	-	-	13年度：第1回調査実施
目標年度： 目標値	-	21年度：自己 100% 学校関係者 100%	-	-	3年毎調査実施
実施年度： 実績値	-	19年度：自己100% 学校関係者 100%	-	-	19年度： 研究会議を60回開催
19年度 実施状況等	試験内容、実施方法等を検証し、適宜見直し。 ・指導主事候補の受験資格の年齢要件、試験内容を教頭、園長候補のものに一本化。	自己評価実施率：100% 学校関係者評価：100%	全校・園で実施 学校評価における外部評価者としての在り方を検討	18年度事業終了 (参考：18年度実績) 二学期制や長期休業期間の弾力的運用、小中連携などについて実践研究を行った。 ・二学期制：5校 ・長期休業期間の弾力的運用：2校 ・小中連携：4中学校、9小学校	「第3回北九州市学校教育実態調査」を実施。 研究会議を60回開催。 ・調査書作成 ・調査結果分析 ・報告書作成  調査結果説明会実施。 (平成20年4月)
備考 (特記事項)				18年度事業終了	
担当(課)	教育・教職員課	教育・指導第一課	教育・指導第一課	教育・指導企画課	教育・教育センター

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	251	252	253	254	255
事業名	戸畑商業高等学校の学科改編	戸畑高等専修学校の移転	高等理容美容学校の民営化	特別支援教育サポート事業	社会参加・自立促進に関する調査
事業概要	戸畑商業高校の学科について普通科を新設するなど改編し、多様化する生徒の学習ニーズや進路希望に対応する。この学科改編を機に校名を変更する。(平成19年4月)	戸畑まちづくり構想に基づく再開発事業に伴い、戸畑高等専修学校を移転(平成19年4月)する。	高等理容美容学校(高卒者を対象とした二年制の各種学校)について、民間事業者の活用を含め、運営のあり方を検討する。	教育相談を実施し、家庭生活や学校生活での支援等について、保護者や園・学校等に助言を行う。巡回相談を実施し、授業等における児童生徒等の状況を把握し、校内支援体制づくりや個別の指導計画作成等について園・学校に助言を行う。また、必要に応じて、専門家チームの活用(専門家派遣)を行う。	障害のある児童生徒の社会参加・自立に向けて、関係機関が一体となった支援の在り方について検討する。通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援の在り方について検討する。障害のある生徒の就労、特に一般就労の促進に向け、関係機関及び企業等と連携し、特別支援学校における教育の充実について検討する。
指標	-	-	-	-	在り方についての検討
初期年度: 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	16年度: 検討
目標年度: 目標値	-	-	-	-	17年度: 国の動向をふまえ、検討
実施年度: 実績値	-	-	-	-	17年度: 個別の教育支援計画及び個別移行支援計画について検討。
19年度 実施状況等	18年度事業終了 (参考: 18年度実績) ・福岡県教育委員会から、学科改編について承認。 ・学科改編・校名変更のための規則を改正。 ・平成19年4月1日学科を改編し、「北九州市立高等学校」に校名変更。	18年度事業終了 (参考: 18年度実績) ・施設改修工事の実施。 ・平成19年4月1日移転(北九州中央高等学園と校舎を共有)	運営のあり方についての検討を継続している。	巡回相談 260人 教育相談 289人 専門家派遣 3回	就労支援コーディネーターを配置し、就職や実習協力、企業の開拓に努めることができた。 就労支援専門家を5職種派遣し、有効に活用することができた。 職場実習のための事業所面接会を10月17日に実施した。
備考 (特記事項)	18年度事業終了	18年度事業終了		19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業名・事業概要を変更。(旧・学習障害児等支援事業)	当初計画による事業は、17年度で完了し、新たな施策を平成18年度より取り組む。
担当(課)	教育・指導企画課	教育・指導企画課	教育・指導企画課	教育・特別支援教育相談センター	教育・特別支援教育課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	256	257	258	259	260
事業名	A D H D ・高機能自閉症児等サポート事業	特別支援教育推進研修事業	特別支援学校における緊急時対応体制整備事業	教職員研修派遣（特別支援教育担当職員）	フレンドリー指導員事業
事業概要	市立幼・小・中学校の通常の学級に在籍するA D H D 児や高機能自閉症児等に対する専門的な教育的支援を行うとともに、教員や関係機関との調整を行う地域の中核となるコーディネーター的な役割を果たす人材を育成する。	教員の特別支援教育に関する指導力と専門性の向上を図るために必要な研修を行なう。また、養護教育に関する専門的・技術的事項について委嘱研究を実施する。	北九州特別支援学校及び八幡西特別支援学校に、医療的ケアを必要とする障害の重い児童生徒が増加しているため、それぞれの学校に看護師1名を配置し、緊急時等に対応できる体制を整備する。	本市の特別支援教育の充実・向上のため、通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校から独立行政法人国立特殊教育総合研究所短期研修等に派遣する。	各学校における不登校、いじめ、暴力行為などの児童生徒の問題行動等の解決に向け、必要に応じてフレンドリー指導員を市立小中学校に配置する。
指標	-	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-	-	-
19年度 実施状況等	巡回相談、訪問相談等：169回 人材育成：21人	通級指導教室新担当教諭、特別支援学級新担当教諭、特別支援学校新担当教諭、新任教頭、新採校長等の教職員を対象に、夏期休業期間中を中心に38講座の研修を行った。	看護師の配置 運営協議会の実施 教職員研修の実施 校内における実施体制整備	特別支援学校から、今後の特別支援教育を担う中核となる教員を1名派遣した。	平成18年度～ No.340 学校支援のための市費講師配置事業に統合。
備考 (特記事項)	No.254「特別支援教育サポート事業」に統合	平成18年度から「通級・軽度障害児担任研修」「養護教育推進事業」「教職員研修事業」「教育相談事業（一部）」を統合し、「養護教育推進研修事業」とする。 (事業名変更)	盲・聾・特別支援学校における医療的ケア実施体制整備事業（文部科学省）委嘱		18年度事業統合
担当(課)	教育・特別支援教育相談センター	教育・教育センター	教育・特別支援教育課	教育・教育センター	教育・指導第二課、教職員課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	261	262	263	264	265
事業名	スクールカウンセラーの配置	不登校児童生徒療育キャンプ(ワラビーキャンプ、ウィンターキャンプ)	学校施設の計画的建て替え(改築)	学校施設の計画的な改修(大規模改修)	学校施設ふれあい事業
事業概要	いじめや不登校等の児童生徒及び保護者への対応には、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが重要な課題となっているため、教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」であるスクールカウンセラーをすべての市立中学校に配置し、生徒指導上の諸問題の解決を図る。	不登校の解決を図る一環として、指導員等の指導・援助のもとに、夏季と冬季に療育キャンプを行い、自主性、自立心を育成し、学校への復帰を促す。	安全で豊かな学習環境を確保し、教育環境の改善を図るため、老朽化した学校施設(校舎、屋内運動場、プール等)の建て替えを計画的に進める。	建て替えまでの校舎の耐久性の確保及び教育環境の改善を図るため、外部や内部、転用可能教室の改造、設備の更新等の大規模改修工事を、原則各校3年計画で実施する。	学校を地域に開かれた安全で環境の良い、特色のあるものにするため、学校施設の整備にあたって地域の意見を聞くなど、住民参加の学校づくりを行う。
指標	-	-	建替着手校数	-	-
初期年度: 初期値 (計画策定時)	-	-	16年度:年2校	-	-
目標年度: 目標値	-	-	21年度:順次実施	-	-
実施年度: 実績値	-	-	19年度:年2校	-	-
19年度 実施状況等	市内全中学校(63校)にスクールカウンセラーを配置するとともに、配置時間を拡充し、小学校への派遣を実施。	ワラビーキャンプ参加者数:15人 ウィンターキャンプ参加者数:7人	老朽校舎等建て替え:2校 プール建て替え:1校	実施設計7校、大規模工事5校(うち完了5校)。	小学校6校、中学校4校で実施。 実施内容 ・校地の一部に芝生を張り、地域開放的な広場の整備 ・校舎の一部を多目的スペースに改修し、地域交流の場に整備
備考 (特記事項)	19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業概要を変更。				19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業名・事業概要を変更(旧・学校施設グレードアップ事業)
担当(課)	教育・指導第二課	教育・指導第二課	教育・施設課	教育・施設課	教育・施設課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	266	267	268	269	270
事業名	さわやかトイレ整備事業	特別支援学校教室空調設置	学校規模適正化推進事業	小規模校特別転入学制度～のびのびフレンドリースクール～	通学区域制度の情報公開事業
事業概要	小中学校のトイレについて、これまで進めてきた悪臭対策、小学校トイレ完全男女別化に加え、洋便器の増設、古くなった天井や壁の塗装を行い、「明るく、清潔な」トイレを4年間で整備する。	市立特別支援学校のうち、空調機器が未設置の知的障害及び病弱を対象とした5校について、普通教室及び特別教室に空調機器を設置する。	近年の少子化傾向により、市内全体で児童生徒数の減少が進み、小規模な学校が増えているため、教育効果の向上と教育環境の整備を図る目的で、学校統合を行う。	自然環境に恵まれた郊外の小規模な小学校に、通学区域を越えて通学することにより、児童の心身の健康増進を図るとともに、豊かな人間性と自然を愛する心などをはぐくむ。	通学区域索引簿・指定学校変更許可基準・教育関係相談先一覧などをウェブサイトにて公開し、教育委員会ホームページにリンクさせ、広く一般市民へ情報を提供する。
指標	-	設置学校数	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	16年度：2校	-	-	-
目標年度： 目標値	-	19年度：5校（全養護学校設置完了）	-	-	-
実施年度： 実績値	-	19年度：1校（累計5校）	-	-	-
19年度 実施状況等	小学校22校、中学校9校の計29校で排水管清掃、小便器自動水洗化（センサー式）等の悪臭対策工事を実施。	門司特別支援学校に設置。	黒崎小学校・陣山小学校の統合。 道原小学校と山本小学校の廃止及びすがお小学校の設置に係る条例改正。	合馬小学校・道原小学校（小倉南区）、河内小学校（八幡東区）、柄杓田小学校（門司区）の4校にて実施。 ・制度利用者数（19年度）：49人（継続30人、新規19人）	15年度より継続実施。コンテンツの更新・修正を実施。
備考 (特記事項)	19年度拡充（ハートフル子どもプラン）により、事業名・事業概要を変更（旧・クリーン・アップトイレ整備事業）	19年度事業終了			
担当(課)	教育・施設課	教育・施設課	教育・企画課	教育・企画課	教育・企画課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	340	345	359	360	361
事業名	学校支援のための市費講師配置事業	(仮称)北九州市特別支援教育推進プランの策定	「子どもの未来をひらく教育改革会議」事業	35人以下学級編制の実施	学校施設の耐震補強
事業概要	学校現場の課題や状況に応じて学校を支援するため、少人数・習熟度別指導やフレンドリー指導員、特別支援教育補助等、より学校の希望に即した配置を行う。また、18年度に実施した「いじめ問題総点検」の結果を踏まえ、いじめへの対応として、人員の配置が特に求められる学校に対し、市費講師を配置する。	学校教育法が改正されることを受け、本市の特別支援教育のあり方について総合的な検討を行い、「(仮称)北九州市特別支援教育推進プラン」の策定を行う。	本市教育のさらなる発展のため、学校、家庭、地域の果たすべき役割及び市民全体で次代を担う人材を育むあり方について、幅広い視点から議論を行い、今後の教育行政への活用を図る。	「小1プロブレム」や「中1ギャップ」といった課題に対処するため、平成20年度から小学校1年生(平成21年度からは小学校1・2年生)及び中学校1年生について35人学級を実施する。	安全で安心な学校施設の整備のため、建築基準法が改正された昭和56年以前に建設された学校施設の耐震補強を行う。また、教育環境の改善を図るため、あわせて大規模改修工事を行う。
指標	-	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-	-	-
19年度 実施状況等	活用内容：少人数・習熟度別指導、放課後教室、フレンドリー指導員事業、特別支援教育補助など。  配置実績 ・学校支援 120名 ・いじめ撲滅 15名	北九州市子どもの未来をひらく教育改革会議から、「北九州市特別支援教育の充実に向けて」(提言)を受けた。	平成19年10月会議開催。会議を6回開催し、教育の課題や方向性について幅広く検討した。	平成20年度に増学級が予想される学校の教室整備。 小学校：32校	実施設計：14校 耐震補強工事：14校 (うち完了1校)
備考 (特記事項)	18年度統合・19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業名・事業概要を変更。	18年度新規事業	19年度新規事業	19年度新規事業	19年度新規事業
担当(課)	教育・教職員課	教育・特別支援教育課、教職員課、企画課	教育・企画課	教育・教職員課、施設課	教育・施設課



## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	362	363	364
事業名	教職員の人事評価等に関する調査研究	北九州市立高等学校の充実	学校大好きオンリーワン事業
事業概要	平成18年度から導入した人事評価の結果の活用方法や運用状況を検証し、一層の改善を図るとともに、高い指導力のある教員を(仮称)マイスター教員として認定し、活用する等、教員の資質向上を図る方策について検討を行う。	北九州市立高等学校は、学科改編や校名変更、通学区の変更、特待生奨学金の創設等を行ってきたが、「文武両道」の教育方針のもと、学力を向上させるとともに「スポーツや芸術の才能を伸ばす学校」づくりを推進するため、カリキュラムの見直しや生徒寮の整備などに取り組む。	教科等教育における実践研究の推進と、専門性の高い指導力のある教師の育成を図るために、長期的な展望に立って、本市小・中学校における教科等教育の研究拠点校づくりを推進する。これらの研究拠点校の成果を全市に広め、本市教育の充実と教育水準の向上を図り、子どもがいそいそと学ぶ学校づくりを目指す。
指標	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-
19年度 実施状況等	調査研究協議会において活用方法等の検討(処遇、活動内容)	校名変更(旧：戸畑商業高校) 学科改編(普通科設置) 通学区の一部変更(スポーツや芸術の技術が優秀な生徒については市外からでも可) 特待生奨学金を5名に給付	第1期推進校4校を委嘱し、実施。
備考 (特記事項)	19年度追加事業	19年度新規事業	19年度新規事業
担当(課)	教育・教職員課	教育・指導企画課	教育・指導第一課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	271	272	273	274	275
事業名	青少年ボランティアステーション推進事業	青少年施設ボランティア養成事業	北九州市環境社会貢献活動等奨学金事業	遊びの広場促進事業	青少年施設の機能充実
事業概要	社会の構成員としての規範意識や命を大切にし他人を思いやる心など、豊かな人間性をはぐくむため、青少年ボランティアステーションを拠点に青少年が行うボランティア体験活動を支援、促進する。	青少年などに対し、青少年施設でのボランティアに関する研修等学習の機会を提供するとともに、施設ボランティアとして青少年施設を活動の場として積極的に提供する。	青少年のボランティア活動への参加促進と優秀な人材の確保・育成のため、優れた活動を行っている学生に奨学金を給付する。	市内の青少年育成団体やグループが実施する子どもの体験活動の中から、地域の特色を生かした活動や冒険遊び場（プレイパーク）活動など、他の団体やグループの参考になる事業に対して支援を行う。	青少年に対する自然体験活動をはじめとする様々なプログラムの提供や青少年育成指導者の養成をさらに充実するとともに、家族利用やグループ利用、学校教育・生涯学習での利用など、新たなニーズに対応するため、青少年の家の機能見直しや再配置を検討、実施する。
指標	ボランティア体験活動参加者数	-	-	-	-
初期年度：初期値（計画策定時）	15年度：2,455人	-	-	-	-
目標年度：目標値	21年度：2,500人	-	-	-	-
実施年度：実績値	19年度：2,767人	-	-	-	-
19年度実施状況等	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修機能</li> <li>・ミニクルキャンプ事前研修、夏季ボランティア体験事前研修、ボランティア入門講座、ボランティアリーダー養成事業</li> <li>・情報機能</li> <li>・夏季体験活動募集チラシ、青少年ボランティアステーション「一年のあゆみ」、青少年ボランティアステーション広報誌</li> <li>・課題を抱える青少年のボランティア活動</li> </ul> <p>福岡家庭裁判所小倉支部との連携、北九州市立子ども総合センターとの連携</p> <p>活動者数：2,767人（達成率：110.7%）</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各青少年施設においてのボランティア研修会を実施</li> <li>・施設主催事業等における活動の場の提供</li> </ul> <p>ボランティア登録者：462人</p>	<p>支給対象者：北九州市に1年以上居住または保護者が北九州市に1年以上居住する高校生・大学生等で、継続して社会貢献活動を行い、顕著な実績のある者</p> <p>奨学金の額：1人につき10万円</p> <p>予算原資：北九州市篤志奨学資金貸付基金（学事課管理）</p> <p>支給人数：14人</p>	<p>応募件数10件中、6団体に359,362円を助成。</p>	<p>玄海青年の家に指定管理者制度を導入</p> <p>自然体験活動等の主催事業（4施設）：155事業実施</p> <p>再配置計画作成作業中</p>
備考（特記事項）	初期値(15年度)実績違いによる変更				
担当(課)	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・青少年課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	276	277	278	279	280
事業名	野外教育推進事業	紫川大冒険	チャレンジ100キロ	九州都市中学生交流大会	市民とともに進める自然環境の保護
事業概要	各青少年施設において、施設の特徴を生かしながら魅力あるプログラムをつくり、青少年の自主的で主体的な事業への参加・活動の促進を図り有意義な自然体験活動の場を提供する。	紫川をキーワードとし、川を通して生き生きとした青少年の自然体験活動を行い、困難を克服し、たくましさ、協働の大切さを学ぶ。	青少年施設に宿泊しながら、市内約100キロの行程を自らの足で歩くことを通して心身ともにたくましい子どもの育成を図る。	九州の県庁所在地、政令指定都市の中学生が一堂に会し、野外体験などの交流活動を通じて、豊かな人間関係づくり、次世代を担う青少年としての資質を育成する。	自然環境の重要性に対する市民意識の啓発を図るため、山田緑地などの自然観察施設を利用し、自然保護団体やNPO、ボランティアなどと連携し、各種教室、講座を開催する。
指標	-	-	-	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	-	-
目標年度： 目標値	-	-	-	-	-
実施年度： 実績値	-	-	-	-	-
19年度 実施状況等	<p>活動内容</p> <p>各青少年施設において、各種野外活動プログラムを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイチャースクール事業</li> <li>・カヌー自然体験活動</li> <li>・青少年施設職員研修</li> </ul> <p>施設利用者数： 114,300人</p>	<p>期間：平成19年8月20日(月)～平成19年8月22日(水)</p> <p>場所：小倉南区大字頂吉(かぐめよし少年自然の家)</p> <p>参加者：小学4年生～中学3年生(48人)</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)ダムカヌー</li> <li>(2)沢のぼり</li> <li>(3)その他自然体験活動</li> </ol> <p>参加者負担金 6,500円/人</p>	<p>期間：平成20年3月25日(火)～29日(土) 4泊5日</p> <p>場所：北九州市一円</p> <p>参加者：小学4年生～中学3年生(男子46人、女子48人)</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)市内青少年施設間の約100キロの踏破</li> <li>(2)事前事後研修</li> </ol> <p>参加者負担金 15,000円/人</p>	<p>実施内容：開催都市の青少年施設等を利用し、班別活動や都市紹介、レクリエーション、野外活動などをとおして、交流を深める。</p> <p>平成19年度実績(鹿児島大会)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)実施時期 平成19年8月1日(水)～2日(木)</li> <li>(2)会場 鹿児島県立青少年研修センター</li> <li>(3)参加者 市内中学校からの推薦による中学2年生64名、引率者11名</li> </ol>	<p>自然観察会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動回数：354回</li> <li>・参加者：11,650人</li> </ul>
備考 (特記事項)		19年度事業終了。事業の見直しを行い、同部で実施している「紫川ジニア探検隊」に統合			
担当(課)	子ども家庭・青少年課	建設・保全課	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・青少年課	建設・公園管理課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	281	282	283	284	285
事業名	青少年団体指導者養成総合事業	ワクワク農業体験事業	夏休みこどもバスぼ～と	こども文化バスポート事業	子どもたちの文化体験事業
事業概要	子ども会をはじめとした青少年育成団体等の自主的な活動を支援するため、子どもの育成活動に関わる人などを対象に指導者養成事業等を行う。	食の原点である農について理解を深めるため、農に関する話や農作業体験等、学校が取り組む農の学習を支援する。	子育てに対する親の経済的負担や送迎の負担を軽減するとともに、子どもの社会参加、自立、自主性の育成に貢献するため、夏休み期間中に小・中学生向けに、1日乗車券の料金(小学生350円、中学生700円)で、7日間市営バスの全路線乗り放題のチケットを販売する。	夏休みを中心に、文化施設などの無料(一部有料)バスポートを小・中・特別支援学校の児童・生徒及び幼稚園・保育所等の幼児に配布し、歴史・文化・自然に接する機会を増やすことによって、「心の豊かさ」をはぐくむとともに、「家族のふれあい」の増加を図る。	子どもたちの豊かな表現力や感性を養うとともに、文化への理解関心を深めるため、音楽・演劇等文化施設をはじめ、学校や地域等で文化関係者が指導を行う文化体験事業を実施する。
指標	-	-	発売枚数	延利用者数	参加者数
初期年度: 初期値 (計画策定時)	-	-	16年度:計974枚 小学生券616枚 中学生券358枚	16年度:139,000人	16年度:2,958人
目標年度: 目標値	-	-	21年度:1,000枚	21年度:153,000人	20年度:8,500人
実施年度: 実績値	-	-	19年度:472枚 小学生券251枚 中学生券221枚	19年度:135,000人	19年度:7,944人
19年度 実施状況等	受講者数:710人 ・区開催分:665人 ・市開催分:37人 ・夜宮青少年センター開催分:8人	実施内容:農に関する話、農作業体験等を通じて小学校が取り組む農の学習を支援した。  参加学校数:19校	乗車券のお得感や利便性を積極的のPRした。	配布エリアは北九州市圏(北九州市・中間市・芦屋町・水巻町・岡垣町・遠賀町)及び下関市。  新たに長門市が参加。8施設追加し、50施設で実施。	子ども伝統文化体験北九州芸術祭において、日本舞踊、民謡等の伝統文化の体験講座を開催。 音楽アウトリーチ 芸術家が直接小学校などに出向いて、クラシック音楽などに触れる機会を提供した。 表現教育 演劇的手法を活用し、子どもの「表現力」「創造力」を高める表現教育を学校などで実施。 演劇ワークショップ 演劇の普及を目的に学校に出向いて、演劇ワークショップを実施。 パントマイムワークショップ プロのパントマイマーが北九州に集結するフェスティバルにおいて、パントマイムのワークショップを開催。
備考 (特記事項)			北九州空港線(高速路線)での適用はできない。	配布対象者拡大により、目標値変更。	目標値変更
担当(課)	子ども家庭・青少年課	産業経済・農林課	交通・業務課	教育・企画課	企画文化・文化振興課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	286	287	288	289	290
事業名	子ども文化ふれあいフェスタ	美術館新世紀計画～未来の入館者育成事業	文化財出前教室	博物館セカンドスクール事業	少年少女合唱団・ジュニアオーケストラ育成
事業概要	子どもたちを対象に様々な文化体験・鑑賞ができる「子ども文化ふれあいフェスタ」を開催し、文化を身近に感じてもらうことにより、子どもたちの豊かな人間性と多様な個性をはぐくむ。	美術を愛好する心を育て、豊かな情操を養うなど、子どもたちの心の教育の充実を図るため、たんけんパスポートの配布やおもしろミュージアム、館内特別授業などを行う。	小学校高学年を対象に、地域の埋蔵文化財に触れたり身近な文化財を調べたりすることで、地域や歴史への関心を深め、郷土愛をはぐくむため、学芸員を派遣し、出前授業を実施する。	いのちのたび博物館を「第2の学校」と位置付け、学校では得られない知識を習得するとともに、貴重な体験を通して、総合的な学習の時間、理科、社会科等の教科の学習意欲を高める。	音楽を通して情操豊かな人間形成と音楽分野の高揚を図り、次代の芸術・文化の担い手を育成するとともに地域文化の振興に寄与することを目指し、少年少女合唱団、ジュニアオーケストラを育成する。
指標	来場者数	実施回数(おもしろミュージアム、館内特別授業)	-	累計入館学校数	団員数
初期年度：初期値(計画策定時)	16年度：9,117人	16年度：50回	-	15年度：217校	16年度：188人
目標年度：目標値	19年度：4,000人	21年度：60回	-	21年度：1,179校(累計)	20年度：200人
実施年度：実績値	19年度：1,535人	-	-	19年度：186校	19年度：174人
19年度実施状況等	<p>時期/場所 ・平成19年7月26日(木)～7月28日(土) ・現代美術センター・CCA北九州 ・平成19年9月29日(土)～9月30日(日) ・北九州芸術劇場大ホール・中劇場・小劇場、アート&amp;エコスペース、アートラウンジ、NHK北九州放送局、朝日新聞さんさん広場、九電イリス、小倉城庭園、文学館、子どもの館、視聴覚センター</p> <p>内容 事前に参加者を募集し、各会場で実行委員会構成団体により行われる芸術文化を体験・鑑賞する。 ・体験型プログラム：18事業 ・鑑賞型プログラム：2事業 のべ参加者数：1,535人(うち体験型プログラム参加者：677人)</p>	<p>17年度事業終了 平成18年度～従来の内容を発展・拡大させ、新規事業「No.346 わくわくアートミュージアム事業」として実施。</p>	<p>9校442人が参加 実施校、実施学年、参加児童数、地域の主な遺跡 ・門司中央小学校：6学年30名、大積前田遺跡 ・松ヶ江南小学校：6学年73名、原町別院遺跡 ・富野小学校：6学年41名、大島遺跡・附属小倉小学校：6学年82名、大島遺跡 志井小学校：6学年88名、志井雀木遺跡・祝町小学校：6学年25名、高槻遺跡、高槻小学校：6学年26名、高槻遺跡・中原小学校：6学年57名、千防遺跡・富野市民センター：1～6年20名 大島遺跡</p>	<p>博物館への誘致事業(P R)の実施 ・博物館誘致事業 ・博物館利用案内事業 ・情報発信手段活用による誘致活動</p> <p>学校教育支援事業(学校教育との連携) ・博物館活用資料整備事業 ・体験学習プログラムの提供 ・授業づくり支援</p> <p>家庭教育支援事業(学校週5日制・生涯教育への対応) ・「いのちのたび子ども教室」</p>	<p>団員数 ・北九州市立少年少女合唱団：63人 ・北九州市ジュニアオーケストラ：111人</p>
備考(特記事項)		17年度事業終了			
担当(課)	産業経済・文化振興課	教育・美術館	教育・文化財課	教育・自然史歴史博物館	企画文化・文化振興課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	291	292	346	365
事業名	青少年社会参加促進事業	ジュニアマイスター養成講座	わくわくアートミュージアム事業	菜の花プロジェクト推進事業
事業概要	青少年が自ら企画し運営する文化や福祉、環境などに関する活動をおして青少年の社会参加を促進させるため、市内の団体・グループが青少年の社会参加のために行う事業の中から、他の団体・グループ活動の参考になる事業に対し支援を行う。	子どもたちの科学やものづくりへの興味、関心、探求心を高めるため、北九州マイスターや企業、大学等と連携して、小・中学生を対象に各種教室を開催する。	子どもたちの感動する心や豊かな情操を養うため、現在将来にわたり、美術館を積極的に活用し美術に親しむ態度を育てる。美術ジュニアボランティアの育成、「たんけんパスポート」の配布やワークショップ、館内授業などを行う。小・中学校の学習指導要領に美術館を活用した授業の実施が明記されたことを受け、学校の美術教育活動を支援する。	市民（子どもたち）参加者が、ボランティア活動や環境教育の一環として、菜の花栽培から廃食用油の回収・再利用までを体験し、資源循環や新エネルギー利用について理解を深める。
指標	-	参加者数	-	
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	15年度：14,832人	-	
目標年度： 目標値	-	21年度：8,000人	-	
実施年度： 実績値	-	19年度：7,131人	-	
19年度 実施状況等	実施方法の変更など今後のあり方を検討したが、未実施。	活動内容 一般向け科学体験事業： たのしい科学教室、たのしい工作教室、本物ものづくり教室、未来の科学者教室、ふしぎ発見「わくわくサイエンスキッズ」、科学教室、サイエンスショー、ロボット工房親子ロボットプログラミング教室、サッカーロボット教室	活動件数：121回 ・美術ジュニアボランティア活動：10回 ・ワークショップ：10回 ・館内授業：101回 (うち小学生美術鑑賞教室：28回)	モデル事業：4団体 BDFセミナー開催 (10月・90人参加) 種子の無料配布 (市民、教育施設など：5,000袋)
備考 (特記事項)	・事業内容変更 ・19年度事業終了予定		18年度新規事業	19年度新規事業
担当(課)	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・児童文化科学館	教育・美術館普及課	環境・環境首都推進室

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	293	294	295	296	297
事業名	めざせ子どもの体力向上推進事業	ジュニアスポーツ振興事業	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	ドリームスポーツタウン推進事業	「わくわく体験」スポーツ教室
事業概要	低下傾向にある子どもたちの体力向上のため、ジュニアスポーツ体験教室や、ジュニアスポーツステップアップ・フェスタを実施し、子どもたちにスポーツの楽しさやスポーツの機会を提供する。	学校体育の中で体験する機会の少ない競技を中心に、競技の普及、基礎技能の習得及び競技力の向上を図る。	子どもたちをはじめ地域の住民が誰でも、どこでも、いつでもスポーツを楽しむことができる、住民の主体的な運営による総合型地域スポーツクラブの育成を目指し、市内で設立、あるいは準備をしているクラブへの育成・支援を行う。	市民に感動を与える市民チームやトップアスリートを育成するため、市民サッカーチーム「ニューウェーブ北九州」による子どもたちを対象としたサッカー指導を実施する。	小学1・2年生を対象に、冬季におけるスポーツ体験としてアイススケート教室を授業の一環として実施し、青少年の健全育成と生涯スポーツ実践を培う一助とする。
指標	-	-	クラブ数	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	16年度：3クラブ	-	-
目標年度： 目標値	-	-	21年度：7クラブ	-	-
実施年度： 実績値	-	-	19年度：5クラブ	-	-
19年度 実施状況等	ジュニアスポーツ体験教室：18教室、647名（体験14教室：551人、相撲4教室：96人） ジュニアスポーツステップアップ・フェスタ：9教室、462名  合計：27教室を実施、1,109名が参加。	18年度事業終了（体育協会自主事業として実施）	総合型地域スポーツクラブ育成研究会を実施し、興味を持っている団体が勉強・研修している。	巡回指導：166チーム（4,601人） サッカークリニック：14回（488人） レディースサッカー大会の実施	12月から3月までの間、市内の市立小学校の1・2年生を対象に、アイススケート教室を実施した。 参加者：16,641人
備考 (特記事項)		18年度事業終了	総合型地域スポーツクラブ設立のため、事前相談を受けている。（2～3ヶ所）		
担当(課)	企画文化・ スポーツ振興課	企画文化・ スポーツ振興課	企画文化・ スポーツ振興課	企画文化・ スポーツ振興課	企画文化・ スポーツ振興課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	298	299	300	301	366
事業名	小学校普通教室の暖房	学校給食の安全確保	中学校の昼食事業	学校給食における食物アレルギー原因物質除去食の実施	子どもの健康・体力づくり推進事業
事業概要	冬季の特に寒い日に限り、すべての小学校の普通教室において、教室暖房を実施する。	給食の安全確保をするため、小学校給食物資の抜き取り検査を行い、検査結果をホームページなどで公表する。	家庭の事情等により弁当を持参できない生徒に対し、栄養価等を配慮した昼食の選択肢を広げるため、既存の売店などを販売場所として活用し、弁当などの販売を行う。	他の児童と同じ給食が食べられない児童の心理的負担や保護者の要望が強まっていることを考慮して、除去食を実施する。平成17年度に、校内体制のあり方などを検証するモデル事業を実施し、その結果を検証したうえで、平成18年度からの本格実施を目指す。	保健福祉部局や学校医との連携により、体を動かすことの意義や食育の重要性を啓発するなど、小学生の親子を対象とした健康・体力づくり教室を小学校の教室、体育館、運動場を会場に、年間を通して開催する
指標	-	-	-	実施校数	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	17年度：小学校18校、養護学校3校(モデル実施)	-
目標年度： 目標値	-	-	-	19年度：全ての小学校及び特別支援学校の該当校	-
実施年度： 実績値	-	-	-	19年度：全ての小学校及び特別支援学校の該当校	-
19年度 実施状況等	教室暖房を実施することにより、特に寒い日でも室内での児童の活動が容易になるなど、より良い教室環境を提供できている。 19年度：全市立小学校で実施。	約181検体、延べ7077項目の検査を実施。 基準値を超えた細菌が検出された業者等に対する指導：14検体14業者(すべて指導後再検査陰性)	実施校数 ：1,2学期 58校 ：3学期 55校 販売実績：60,588個	本格実施 ・全ての小学校・養護学校のうち、除去食を申し込み、校内の検討により実施を決定された170人(78校)が実施。 実施内容 ・アレルギー食材(卵・乳製品・種実類)の除去。	門司区、若松区の2区で実施。 参加者：各回30名程度。
備考 (特記事項)				事業の進捗に伴い、指標や目標値等を変更。	19年度新規事業
担当(課)	教育・学校保健課	教育・学校保健課	教育・学校保健課	教育・学校保健課	企画文化・スポーツ振興課



## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	367	368
事業名	総合的な食育施策の推進	学校給食の改善
事業概要	心身ともに健やかな市民生活を確立することを目的として、学識経験者等からなる「北九州市食育推進会議」を開催し、本市においてこれまで教育、保健福祉、農政等の各分野で個別に取り組んでいた施策を食育という観点から総合的かつ計画的に推進するための「北九州市食育推進計画」作成のための議論を行う。議論の結果を踏まえ、市として計画を策定後、計画に基づいて各施策の推進を図る。	中学校給食モデル事業を実施するとともに、アルマイト食器に替えてPEN食器を一斉導入するなど、学校給食のさらなる改善を進める。
指標	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-
目標年度： 目標値	-	-
実施年度： 実績値	-	-
19年度 実施状況等	「北九州市食育推進会議」を設置し、11回会議を開催 食育推進会議からの提案により中学校完全給食モデル事業を開始	20年1月9日からPEN食器を102校一斉に使用開始。 20年1月9日から中学校完全給食モデル事業を3校で実施。
備考 (特記事項)	19年度新規事業	19年度新規事業
担当(課)	保健福祉・健康推進課、子ども家庭・保育課、経済文化・農林課、教育・企画課	教育・学校保健課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	302	303	304	305	306
事業名	学校施設開放事業	地域子ども教室推進事業	余裕教室の他施設への転活用の推進	子どもの館運営	日中一時支援事業
事業概要	地域スポーツの普及及び児童の安全な遊び場を確保するため、学校教育に支障のない範囲で小・中学校の体育施設を市民に開放する。	市民センター、学校等を活用して、地域の大人を指導員として配置し、子どもたちの主に放課後における体験活動や交流活動を支援する。(～H18)	地域に密着した学校づくりを推進するため、転用可能な教室等、学校施設の活用を図り、開かれた学校づくりや地域社会との連携強化を図る。	天候に左右されることなく利用できる施設であり、遊び・体験・世代や地域を越えた交流などを通じて、子どもの豊かな感性や新しい感覚を育み、かつ子育て中の世代に対してその支援を行う。	障害児(者)の日中における活動の場を確保し、障害者(児)の家族の就労支援及び家族の介護負担の軽減を目的とする。 放課後対策については、障害児が放課後の時間を安全に過ごすとともに、様々な活動を通じて日常生活の基本動作や余暇活動の習得、社会的行動の形成を促進できるよう機会を提供する。また、実施施設の充実や利用定員の増加について検討する。
指標	学校体育施設の開放率	-	-	-	-
初期年度: 初期値 (計画策定時)	16年度: 約96%	-	-	-	-
目標年度: 目標値	21年度: 100%	-	-	-	-
実施年度: 実績値	19年度: 97.9%	-	-	-	-
19年度 実施状況等	遊び場開放: 128校 スポーツ開放: 184校 で実施。	18年度事業終了 (参考: 18年度実施) 33箇所で開催。	放課後児童クラブを開設 平成15年度: 一校小学校、足立小学校に開設。 平成16年度: 引野小学校に開設。 平成17年度: 小森江西小学校に開設。 平成18・19年度: 開設なし。	平成19年度入館者数: 412,578人 夏休み特別展「長崎街道～シュガーロード～お菓子の国」 ・開催期間: 平成19年7月14日～9月2日 ・開催期間中入館者: 107,172人 ・主な内容: 長崎街道の宿場町である黒崎でこのイベントを開催し、写真展示から黒崎の歴史を紹介した。	【放課後対策】 年間延利用人数: 4,401人 年間延利用回数: 33,735回 【日帰りショート】 年間延利用人数: 1,468人 年間延利用回数: 4,455回 平成18年10月より「心身障害児(者)短期入所事業(336)」のうち日帰りショート分を『日中一時支援事業日帰りショート』とし、平成19年度より「障害児の放課後対策事業(306)」と「障害児放課後サポートクラブ(338)」を「日中一時支援事業放課後対策」として統合。
備考 (特記事項)		18年度事業終了			19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業名・事業概要を変更。
担当(課)	教育・生涯学習課、施設課	教育・生涯学習課	教育・施設課	子ども家庭・子ども家庭政策課	保健福祉・障害福祉課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	307	369
事業名	青少年団体育成補助金	中高生の居場所づくり
事業概要	青少年の自主活動や育成活動の活性化を図り、青少年の健全育成・非行防止活動を促進するため、子ども会連合会やボーイスカウト振興会などに対し事業補助する。	夜宮青少年センターの機能を強化し、中高生が学習やスポーツ、文化活動、仲間との懇談など気軽に行えるようにし、中高生の多様な活動や交流を促進し、健やかに成長していく環境づくりを推進するとともに、事業成果の充実を図る。
指標	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-
目標年度： 目標値	-	-
実施年度： 実績値	-	-
19年度 実施状況等	助成団体及び補助金額 (決算額) (1)北九州市子ども会連合会：2,500千円 (2)北九州ボーイスカウト振興会：1,100千円 (3)社団法人ガールスカウト日本連盟福岡県支部北九州地区：300千円 (4)海洋少年団(門司・洞海)：400千円 (5)ヤングネットワーク北九州：600千円 (6)北九州地区(市)少年補導員連絡協議会：300千円 (7)校区青少年育成会協議会：1,447千円	夜宮「中高生クラブ」 会員数：14名 夜宮中高生講座：3回
備考 (特記事項)		19年度新規事業
担当(課)	子ども家庭・青少年課	子ども家庭・青少年課

# 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

## 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	308	309	310	311	312
事業名	創意工夫を生かした教育の推進(幼稚園)	「お父さん先生課外保育」の実施(幼稚園)	公立幼稚園のあり方の検討	自己点検・自己評価の実施(幼稚園)	外部評価の導入(幼稚園)
事業概要	集団生活や多様な体験活動等を通して、園児の豊かな感性を育て、自立と協同の態度及び社会のルールを守ることなどの道徳性の芽生えを培う教育を推進する。	父親や地域のボランティア等の参加を得て、長期休業期間や土・日に、通常の保育では得られない体験活動を通して、園児の豊かな心をはぐくむとともに、父親の子育ての機会を創出する。	公立幼稚園は、幼稚園における本市幼児教育の先導的な役割を担うため、幼年期における生活や学習の基盤について、実践を通して幼児教育のモデルを提示するとともに、子育て支援や障害児保育の充実等に向けた検討を行う。	教員の資質向上を図り、よりよい教育活動を展開するために自己点検・自己評価を実施し、幼児教育の中核として真に、家庭・地域社会から信頼される、開かれた幼稚園を目指す。	保護者や地域住民などの信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健全な成長を図っていくため、幼稚園において、外部評価を導入する。
指標	-	実施幼稚園数	-	実施幼稚園数	実施幼稚園数
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	16年度：8園(公立)	-
目標年度： 目標値	-	21年度：80園	-	21年度：80園	21年度：58園
実施年度： 実績値	-	19年度：59園(公立3園、私立56園)	-	19年度：37園(公立8園、私立29園)	19年度：37園(公立8園、私立29園)
19年度 実施状況等	各園で地域と連携し、開かれた特色のある教育の実践、山登り、川遊び等の自然体験、祭り参加、日舞体験等実施	【公立幼稚園】 「おやじの会」3園で実施。園行事に「お父さん先生」の協力、「ようちえんまつり」の遊び場計画・実施  【私立幼稚園】 餅つきなど園独自の活動として父親との交流を56園で実施。	幼稚園教育の現状と課題を踏まえ、市民のニーズに応じた公立幼稚園のあり方について検討を行った。	【公立幼稚園】 100%実施。  【私立幼稚園】 29園で実施。	【公立幼稚園】 外部評価の公表：100%実施。  【私立幼稚園】 各園独自に29園で実施。
備考 (特記事項)					
担当(課)	教育・企画課、指導第一課	教育・企画課、指導第一課	教育・企画課、指導第一課	教育・企画課、指導第一課	教育・企画課、指導第一課

## 健全育成 【(9)子ども自身の生きる力をはぐくむ体制づくり】

### 基本施策/豊かな人間性をはぐくむ体制づくり

事業番号	313	314
事業名	研修内容の充実（幼稚園）	私立幼稚園研修代替教員の活用
事業概要	<p>教員としての専門性や資質向上、指導力向上を図るため、研修内容の充実と多様な研修機会の提供を促進する。また、北九州市社会福祉研修所等を活用した幼稚園教員、保育士との合同研修を実施する。</p>	<p>私立幼稚園の教員が研修に参加しやすい環境をつくり、教員の資質の向上や幼児教育の振興を図るため、教員が研修に参加した場合に、代替の教員を活用する研修代替制度を実施する。</p>
指標	-	研修日数
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-
目標年度： 目標値	-	21年度：10日
実施年度： 実績値	-	19年度：平均2.7日 (実施園数16園)
19年度 実施状況等	<p>幼稚園教諭研修を11講座27研修実施。 ・受講者数：795人 幼稚園教諭・保育士との合同研修を実施。 ・カウンセリング研修：21人 ・統合保育研修：23人</p>	16園で制度を活用。
備考 (特記事項)		
担当(課)	教育・企画課、教育センター、教職員課	教育・企画課